

公開講座 専門家によるリレー講座

広島文化学園子ども・子育て支援研究センターでは、平成26年～28年までの3年間「音で遊ぼう」というテーマのもと、公開講座を開催してきた。平成29年度は地域の多様なニーズに応える公開講座を目指し、子ども・子育て支援に関するテーマを拡充した。子ども・子育て研究センター委員の大学教員がそれぞれの専門性を生かし、子育てのニーズに応えるというものである。平成30年度は公開講座をリレー方式にして2回目の開催となる。

第1回 公開講座 「ペタペタアート&ガラスにお絵かき」

第1回	6月19日(火)	ペタペタアート ガラスにお絵かき	小笠原(子ども 学科・准教授)
第2回	8月8日(火)	音で遊ぼう! 楽器で遊ぼう!	和田(音楽学科・ 准教授)
第3回	10月2日(火)	子育ては おもしろい	丸山(保育学科・ 准教授)
第4回	12月7日(金)	直さなきヤダメ? うちの子の〇〇嫌い	江坂(食物栄養 学科・准教授)
第5回	2月5日(火)	こんなとき、どうし たらいいの?	田頭(保育学科・ 教授)

★2018年～2019年に開催

「ペタペタアート」ベビー ARTワークショップ

子ども学科2年生「保育内容（造形表現）」(幼保選択必修)の授業の一環として、6月19日(火)に乳幼児とその保護者たちとの造形活動を行った。活動内容に応じて場所を2か所設定した。

【4号館1階クリエイティブ教室：6月19日 11時～12時】

『ペタペタART』 内容：シール貼り & 手形取り
学生数：15名

「シール貼り」は円形のシールを貼って絵を完成させていくもので、未満児の発達に適した造形

活動として保育園などで取り入れられている活動である。手形取りは、白い紙に子どもの手形のみを写し取るのではなく、子どもの手形が写されることで絵が完成するような活動にした。両者とも「何かが足されることによって完成する絵柄」を考案しなくてはならず、学生たちはその台紙を作成した。絵柄の考案にあたっては「3歳未満の子どもが理解でき、親しみが持てるもの」「保護者も子どもも喜ぶ美しくかわいらしいもの」になるように留意を促した。手形取りでは、絵の具を手や足に塗る感触に驚き、泣き出す子どももいたが、保護者は家ではなかなかできない活動なので積極的に手形や足形を取りたがる傾向が見られた。学生の感想として「子どもが泣くのに慣れていなくて焦ってしまった。」「お母さんと子どもの様子を見ることができて、実習への期待が高まった。」などがあがった。

【1号館1階子ども・子育て支援研究センター：6月19日 11時～12時】『ガラスにお絵かき』 内容：ガラスに絵が描ける（そしてきれいに消すことができる）専用クレヨンで窓ガラスに絵を描く
学生数：5名

Kitpas（日本理化学工業株式会社：窓ガラス専用のクレヨン）を用いた活動を行った。造形ワークショップなどでも用いられているクレヨンで、発色も良く、きれいに消すことができる。また、国産で安全性が高いという特徴を持つ。子どもたちは日常的に窓ガラスに絵を描く経験がないが、「描いてごらん」と声かけされると躊躇することなく大胆に描いていた。保護者もこうした「家ではできない活動」ができることに満足している様子であった。



写真1：手形で花束を描く。

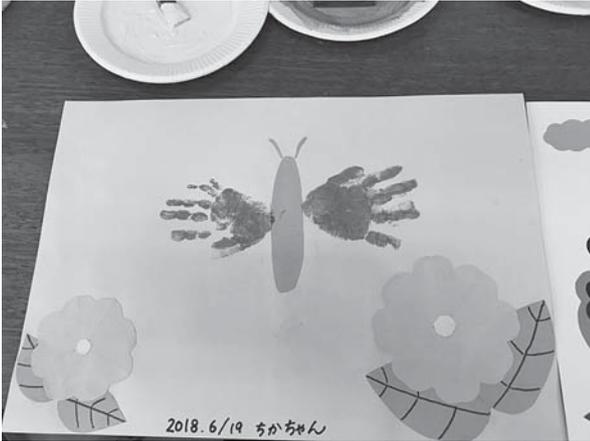


写真2：手形が蝶の羽になる。

「子どもの手が想定していたよりもずいぶん小さかった」と学生が感想を述べた。



写真3：シール貼りをする子どもと保護者。



写真4：ガラスに絵を描く子ども。

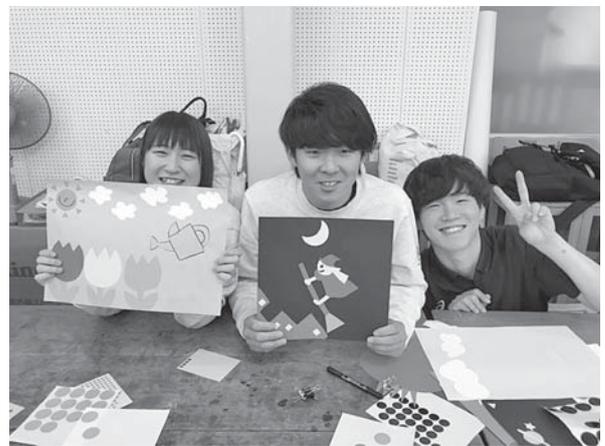


写真5：シール貼りの台紙を持つ学生たち。

(文責：小笠原 文)